

## 『精華祭』について

私ども精華小学校PTAでは、毎年10月に精華祭と銘打ち芸術鑑賞と親子のふれあいを目的とした学校と保護者が協働し運営する活動をしております。

2部構成で学校側は合唱コンクール、保護者側は体験型スタンプラリーを午前・午後、低学年・高学年を3学年ごとに分けて同時進行で行います。

コロナ前は体育館にてクラス毎に合唱を発表、校舎各教室にて各委員会の保護者がブースを運営し委員会ごとに企画したゲームや工作を4～5人のグループに分かれた子ども達がそれを体験しスタンプを集めゴールに向かうそして、順位ごとにメダルや賞状、景品等を渡していました。

しかし新型コロナウイルスの流行により大きく形を変え開催期間が1日だった所を1週間に伸ばし各イベントを散らして行うことになりました。

以前のような体育館での合唱は無くなり観る芸術鑑賞に変わり親子がふれあえるブース運営も無くなりました。

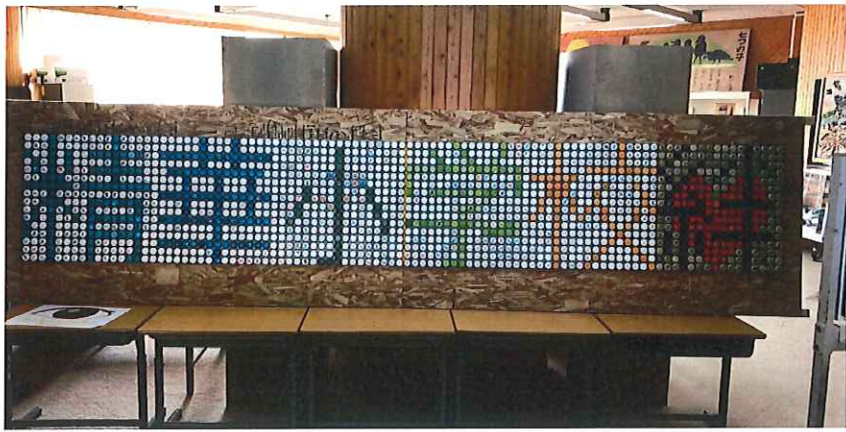
新しい精華祭のメインとなる絵本作りを通して友達、先生、家族など『誰かを笑顔にするプロジェクト』を立ち上げました。

また以前ブースで行っていた企画を持ち帰れるサイズにまとめて配り、子ども達が家で楽しめる且つこれまでの精華祭を思い出せる工夫をしました。

更に、お祭りの雰囲気を盛り上げる為昇降口に風船でアーチを作りモールやメッセージカードで飾り付けをしました。

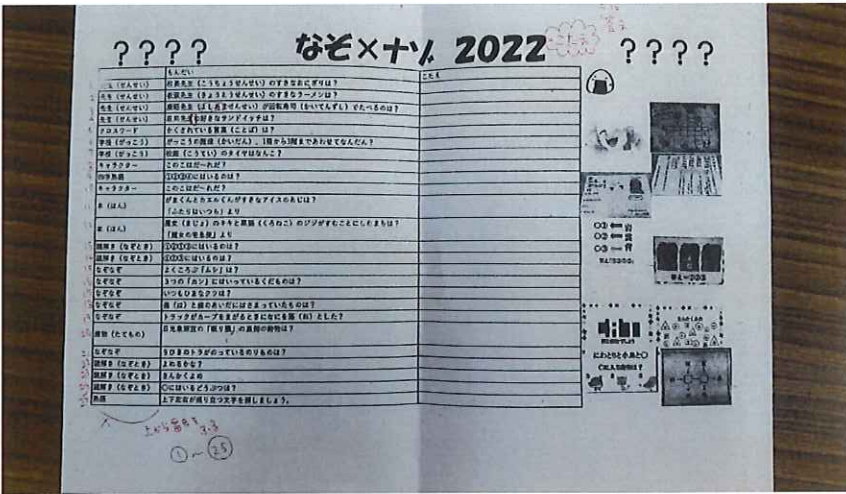
そして何か体験してもらいたいとの思いからキャップアート、なぞ解きを設置し子どもたち全員が楽しめるよう準備しました。

結果は大成功で子ども達も大喜び、改善点も出たので次年度に活かしたいと思います。



子ども達のはめ込んだ  
ペットボトルキャップアート

保護者が力を合わせた飾り付け



PTA全員から募集した  
なぜ×ナゾ

茨城新聞にも取り上げられました！

**指導**  
に派遣

「笑顔にする」絵本作成  
北茨城・精華小で文化祭

北茨城市磯原町磯原の市立精華小（小林真弘校長）で10月中旬の5日間、文化祭に当たる「精華ウイーク」が開かれた。児童らは絵本作りや芸術鑑賞など体験した。同校では、今年は一週間の期間中に文化的活動盛り込み、PTAにより、校内にはバルーンの手飾り付けや、児童に向けた手紙やイラストが掲示された。

「絵本作りは「誰かを笑顔にするような作品」とし、児童らは白い本に思い思いの絵や言葉を描いた。シャスミュージシャンの演奏を味わう芸術鑑賞会や、ペットボトルキャップアート作りなども行われた。

6年の鈴木紗由樹さん（12）は「友達と読書会をしようとした。校外の人など、読書の問題で読書が弾みをくれた」と話した。小野真生さん（12）は「絵本作りで話がかたくなかった」と話した。同校では、今年9月24日は10時チェックカー引き取り、海岸駐車場、1人9リ、自家用、人6千円、路上の高、永山さん親、日立警察、長は10月に遭う恐れを保護した、永山裕子さん、同様に、子は9月24